

現 状

【能力に関する改良目標】

- （繁殖能力）
 - 経営コストの削減につながる産子数などの繁殖能力の改良はあまり進んでおらず、諸外国に遅れをとっている状況
- （産肉能力：飼料利用性）
 - 産肉能力については、一定の改善が見られるが、輸入穀物価格が高騰する中、飼料コストの低減につながる飼料要求率は微減
- （産肉能力：産肉性）
 - ロース芯や背脂肪については、目標の水準を維持

【家畜能力向上に資する取組】

- （改良手法：遺伝的能力評価）
 - 全国統一的な遺伝的能力評価が行われておらず、農家内、地域内の評価にとどまっている状況（パークシャー種の繁殖形質を除く）
 - 現在の改良体制は、国の機関・都道府県・民間がそれぞれ豚の育種改良を行っており、効率的な育種改良が行われていない状況
- （改良手法：人工授精、DNA解析等）
 - 大規模経営を中心に人工授精の導入が進展。中小規模の経営でも人工授精の実施は増加傾向にあるものの、自然交配が主体。また、豚の育種改良を効率的に行うため、一部で遺伝子解析技術を活用した改良が行われているが、普及には至っていない状況
- （飼養管理：国産飼料の利用促進等）
 - 養豚農業振興法案が検討されている中、更なる国産飼料（飼料用米、エコフィード）の利用促進が求められているところ
 - 豚の快適性に配慮した飼養管理のガイドラインを作成
- （飼養管理：衛生対策）
 - 全国的にPEDの発生が広がる中、より深刻な家畜疾病が侵入した場合、養豚経営に大きな影響を及ぼすこととなり、再生産が困難となる可能性

課 題

【能力に関する改良目標】

- （繁殖能力）
 - 遺伝率が低く改良が難しい面がある中での効率的な育種・改良の手法の検討
- （産肉能力：飼料利用性）
 - 産肉データの信頼性を高めるための、直接検定頭数の増大の必要性
- （産肉能力：産肉性）
 - 多様な消費者ニーズへの対応

【家畜能力向上に資する取組】

- （改良手法：遺伝的能力評価）
 - 広域的な遺伝的能力評価体制の構築及び能力評価を活用した種豚の選抜・利用の推進
 - 官民の役割分担の明確化と連携強化
 - 優良な育種素材の有効活用
- （改良手法：人工授精、SNP情報等）
 - 人工授精の普及とこれを通じた広域的な種豚の活用の促進
 - SNP情報を活用した改良の実用化に向けたデータの収集・解析と信頼性の確保
- （飼養管理：国産飼料の利用促進等）
 - 国産飼料の安定的な供給・利用体制の確立（特に飼料用米については、耕種農家とのマッチング等）
 - 我が国の飼養実態を踏まえた、豚の快適性向上への対応
- （飼養管理：衛生対策）
 - 飼養衛生管理基準の遵守徹底、農場HACCPの推進。
 - 各農場の経営形態にあった衛生対策の実施。経営者における防疫意識の向上。